

『心を燃やせ』 ～聖なる炎上～

ルカ24:30～32 (24:13～30)

■ 炎上 vs 神様が与える炎

最近、インターネット上でよく「炎上」という言葉が使われます。誰かの失言や失態が暴露されたり、批判や誹謗中傷が瞬く間に起こるときにこの炎上という言葉が「正義」の名の下に使われますが、それはまるで誰かの人生を燃やし尽くしてしまうような「冷たい炎」というイメージを持ってしまう。しかし、今回の聖書箇所（ルカ 24:30～32）に出てくる「心の中で燃えていた」状態は、希望を灯し、霊的な目を開かせる暖かい炎です。世の中の呪い殺すような冷たい炎ではなく、私たちに希望を照らし、喜びと共に『祝い生かす』炎なのです。

■ エマオの途上

イエス様の弟子たちのうちの2人がエルサレムから60スタディオン（約11km）離れたエマオに向かう途中、十字架にかけられたイエス様について話していました。するとイエス様がその2人のところに向かい、何を話しているのかと聞くと、その2人は目が遮られていたのでイエス様本人とは分からず、暗い顔でイエス様が十字架にかけられたことを伝えました。イスラエルの王となって導いてくれると期待と希望を持って信じていたイエス様が十字架にかけられて死んでしまい、弟子である2人も命を狙われている絶望的な状況の中でエマオに向かっていたのです。イエス様はそんな2人の話を聞いて、「まだ信じていないのか」と答え、かつての預言者たちが語り伝えたことやイエス様ご自身について2人に話し始めました。目的地の近くに到着すると、2人はイエス様を引き留め、一緒に食事をしました。イエス様が食卓につき、パンを取ってそれを裂き2人に渡すと、2人の目が開かれイエス様だと気づきましたが、その時にはもうイエス様の姿は見えなくなりました。しかし、2人の心の中は確かに燃えていて、2人はまた元の道を辿ってエルサレムに戻り、イエス様の復活と福音を証する者となったのです。

■ ①『失意の中を歩む時、イエス様も共にいてくださる』

2人の弟子は、イエス様が希望が見えなくなり、恐怖と絶望の歩みをしていました。私たちが時に希望を失い、絶望的な状況を目の前にしてイエス様を見れない時があります。しかし、たとえイエス様を感じれない時でさえも、イエス様は私たちのそばで一緒に歩いてくださいます。フットプリント（足跡）の詩のように、イエス様はいつもそばにいて、私たちの苦しみをも一緒に背負って歩いてくださるのです。

■ ②『イエス様は私たちの心の目を開いてくださる』

2人の弟子の目は遮られていましたが、イエス様が食卓についてパンを裂き、手渡した時に彼らの心の目が開かれ、イを見る

ことができました。

私たちも、思い込みや過去の痛み、いろいろな出来事を通して現状が見えなくなってしまうことがあります。

しかしその時に、イエス様は私たち一人一人と個人的な関わりを通して目を開かせてくださいます。

『なぜ、どうして』と分からなくなってしまう時、祈りの中でイエス様に求めていきましょう。

イエス様は私たちの目を開いて、本質（目の前の問題ではなくその先にある希望・計画）を見させてくださいます。

■ ③「みことばと交わりの中で、イエス様は心を燃やしてくださる」

「二人は話し合った。『道々お話しくださる間、私たちに聖書を説き明かしてくださる間、私たちの心は内で燃えていたではないか。』」（ルカの福音書 24:32）

2人の弟子は、イエス様が語る聖書の話、御言葉に夢中になっていました。

イエス様は、このような御言葉を用いた交わりを通して、心を燃やしてくださるのです。

それは単なる一時的な感情の高ぶりではなく、心の中で燃え続け、そしてそれは人との関係を通してジワジワと周りに伝わっていくのです。

私たちがイメージするこの世の「炎上」は、冷たく一時的な炎ですが、神様が私たちに与える炎は伝染して、福音が広められていく原動力となり、2000年たった今も燃え続けているのです。人々を冷たく滅ぼす炎ではなく、人の心を暖かい炎で包み込み、神様の素晴らしさを感じることができ、喜びと希望に満ち溢れる炎を心に持ち続けていきましょう。

■ 絶望の道から希望の道へ

エマオの途上は、悲しい絶望の道が希望の道に変わったお話です。

しかしそれは道が変わったのではなく、心の目が開かれることによって見る目線が変わっていくのです。

私たち自身が変わるために何か頑張ろうとしなくても、イエス様が私たちの心に炎を燃やしてくださいます。

私たちはただ、その炎を絶やさないように保つことが大切です。

■ まとめ

イエス様は、いつも私たちと共にいてくださり、私たちの心の目を開いてくださり私たちは本質を見ることができます。すると、私たちの心が燃やされ、たとえどんな問題が起こったとしても、そこから絶望ではなく希望を見出すことができるのです。

もし今、失意や絶望、恐れが心に入り、自分ではどうしようもないと感じているのであれば、今その目線を変えることができるチャンスです。

（要約者：藤林 把宇路）

（2025年11月23日）